

レインボーバスのあり方検討分科会の検討結果について

1. レインボーバスの現状と課題について
2. 分科会の検討内容について
3. 分科会で取りまとめたレインボーバスのあり方について（分科会具申内容）
4. レインボーバスのあり方の具申内容の具体化に向けて

1. レインボーバスの現状と課題について

現在のレインボーバスの運行ルート of 状況と課題

◎ 特徴

- 市役所・すばるホールなどの公共施設を經由。
- 廃止となった近鉄バス津々山台方面路線の代替手段。
- 車両1台で1.5時間間隔の運行。

◎ 概要

- 1日8往復（午前8時～午後8時、所要時間：往復1時間強）
- 車両1台（点検時等は標準車両で運行）
- 運賃：100円（小人半額など割引制度有）
- 経費：約2500万円/年（別途車両代として約2400万円）

◎ 接続

- 富田林駅で、近鉄電車、及び本市東部方面(金剛バス)、金剛東・堺市美原区方面(近鉄バス)の接続。
- 高辺台3号公園前にて、金剛駅方面(南海バス)の接続。

◎ 課題

- 南海バス、近鉄バスの路線バスのルートと輻輳
- 路線バス運賃と比較すると半額以下の運賃設定
- 巡回されていない公共施設も存在
- 全ての市民が利用できる運行ルートになっていない



レインボーバスの運行ルート

2.分科会の検討内容について

①案 現在のレインボーバスを廃止し、路線バス乗継割引の実施

◎ 内容

- 現在のレインボーバスの運行を取りやめ、代替案として、南海バス・近鉄バスに対する乗継割引を適用する。

◎ メリット

- 他の路線バスとの輻輳が解消され、路線バスの活性化が期待できる。
- 路線バスを乗継ぐ場合、レインボーバスを乗継ぐ場合と比べて、「速達性」と「便数」が改善されることにより、乗継利便性が向上し、地域の活性化につながる。

◎ デメリット

- 鉄道や路線バスの乗継が必要になり、目的地までの所要時間や費用が大幅に増える場合がある。
- 路線バスの運賃の乗継割引の実施を行うには、乗継割引額の調整、導入経費（ICカードシステム調整、乗継券の作成）など、各路線バス会社との調整が必要となり、費用と時間がかかる。
- 「すばるホール」へ、公共交通で直接アクセスできる手段がなくなる。



現在の金剛団地付近の路線バス（レインボーバス含む）の運行ルート図
「紫色」が現在の「レインボーバス」のルート

2.分科会の検討内容について

②案 現在のレインボーバスの運行を廃止し、レインボーバス（活用した財源を含む）を交通不便地域対策に活用

◎ 内容

- レインボーバスの運行を取りやめ、レインボーバス（活用した財源を含む）を、交通不便地域に活用する。

◎ メリット

- 他の路線バスとの輻輳が解消され、路線バスの活性化が期待できる。
- レインボーバスにかけていた経費を、交通不便地域での運行に充てることで、安心して移動できる交通を確立することができる。

◎ デメリット

- 鉄道や路線バスの乗継が必要になり、目的地までの所要時間や費用が大幅に増える場合がある。
- 富田林駅方面から金剛方面へ路線バスの乗継が必要となる。
- 「すばるホール」へ、公共交通で直接アクセスできる手段がなくなる。



2.分科会の検討内容について

③案 現行ルート of 縮小及び運賃の値上げ

◎ 特徴

- 特に、路線バスや病院送迎バスとの輻輳が激しい「富田林病院前」・「けあばる」停留所について、運行を取りやめることで、スピードアップを図り、利便性向上及び路線バスとの運賃に格差是正により、運賃値上げを行う。新たな運賃設定（案）は、距離制変動運賃とする。（1～5区間:170円、6区間以遠:200円）

◎ 概要

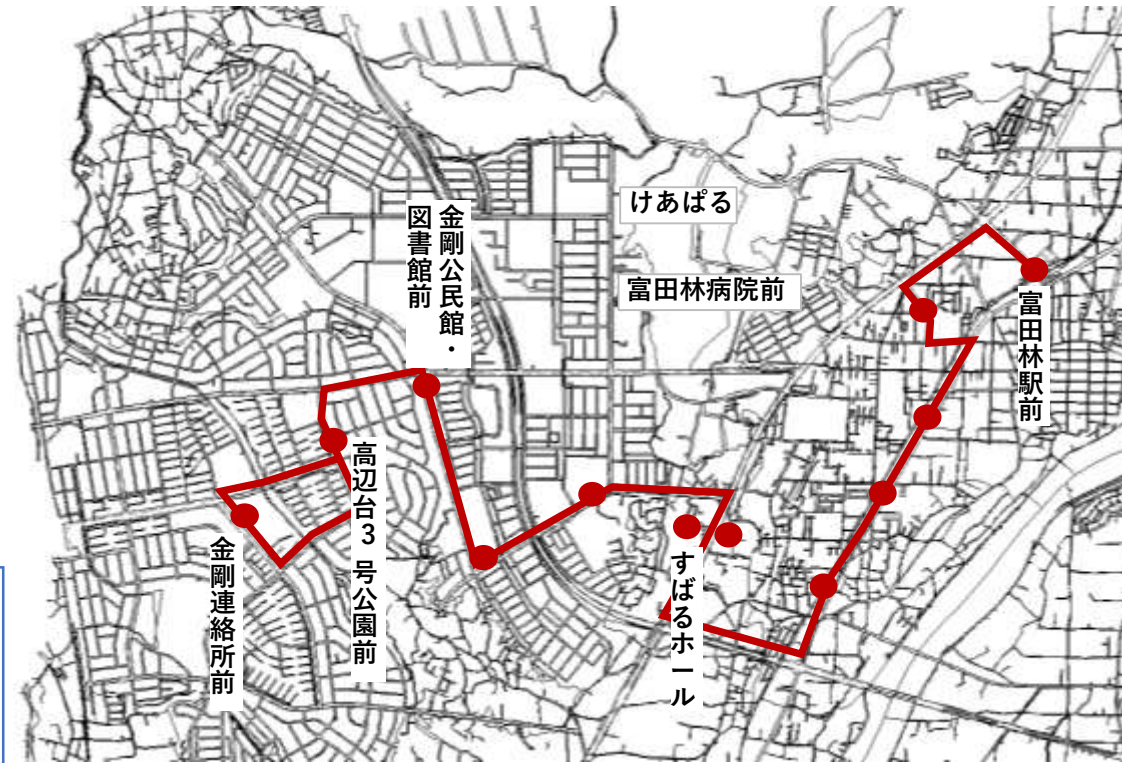
- 1日9～10往復（午前8時～午後8時、所要時間：往復約1時間）
- 車両1台（点検時等は標準車両で運行）
- 運賃：170円と200円（距離制変動運賃）
- 経費：約2500万円／年（便数により経費は変動する）

◎ メリット

- 「富田林駅前」～「金剛連絡所」の所要時間短縮。
- 停留所数の減少により、便数の増便が可能。
- 「けあばる」「富田林病院前」停留所の路線バスとの輻輳の解消。
- 路線バスとの運賃格差が大幅に縮小する。

◎ デメリット

- 路線バスとの輻輳は完全には解消されない。



ルート（案）

2.分科会の検討内容について

	委員からの主な意見
現状のレインボーバス路線について	<ul style="list-style-type: none">・ 富田林病院へは、富田林駅から無料送迎バスが出ており、利用する人がいると思えない。・ 利用者が集中する停留所とあまり利用されていない停留所があるが、バスの利用者は多い。・ レインボーバスの恩恵を受けている地域は限られている。
レインボーバスの廃止(一部廃止含む)について	<ul style="list-style-type: none">・ 廃止した場合、すばるホールや総合福祉会館へ行く手段がなくなってしまう。・ 富田林病院前の停留所を廃止すると、津々山台や小金台にお住まいの方は、富田林病院へ直接行く手段がなくなる。・ OD調査の結果より、利用者が多いため、廃止するというのは厳しいと考える。
乗継割引について	<ul style="list-style-type: none">・ 実施するためには、バスの運賃箱やシステムの改修が必要となる。・ ICカードを利用した乗継割引は可能であるが、運賃や機器が異なるバス会社間の調整に相応の費用が必要となる。
交通不便地域対策について	<ul style="list-style-type: none">・ 交通不便地域へ運行ルートを増やしたり、小型バスの運用などにより路線を増やすべき。・ 交通不便地域対策は重要であり、レインボーバスとは切り分けて検討すべき。
レインボーバスのあり方について	<ul style="list-style-type: none">・ 路線バスを維持するため、路線バスと輻輳している箇所をなくすべき。・ ②案が良いのではないかと考える。・ レインボーバスと路線バスとの役割を明確にし、富田林市民全体が恩恵を受けられるよう再編すべき。・ レインボーバス自体は廃止はせず、交通不便地域に運行するなど何らかの方法を検討する必要がある。・ 撤去する停留所を検討しつつ、ニーズが見込める地域へ運行拡大するなど効率化すべき。・ いきなり廃止ではなく、路線の縮小及び値上げとすることが良い。

3.分科会で取りまとめたレインボーバスのあり方について（分科会具申内容）

分科会として、③案のレインボーバスの再編を基本に具申する。路線バスとの輻輳が多い区間を縮小することにより、目的地の停留所までの移動時間を短縮することができ、便数が増加することにより利用者の利便性を図る。また、路線バスとの運賃格差の是正を行うため、運賃の値上げを行う。



レインボーバス再編の利用状況の調査を行い、将来的な現行路線の必要性も考え、①案や②案への移行も含めて検討する。

※なお、②案にある交通不便地域対策については、レインボーバスのあり方に関わらず、検討を進めていく。

4. レインボーバスのあり方の具申内容の具体化に向けて

レインボーバスの再編（案）について

廃止の意見が多かった停留所を廃止し、路線バスとの運賃格差是正のため運賃の値上げを行う

◎ 現状との変更点

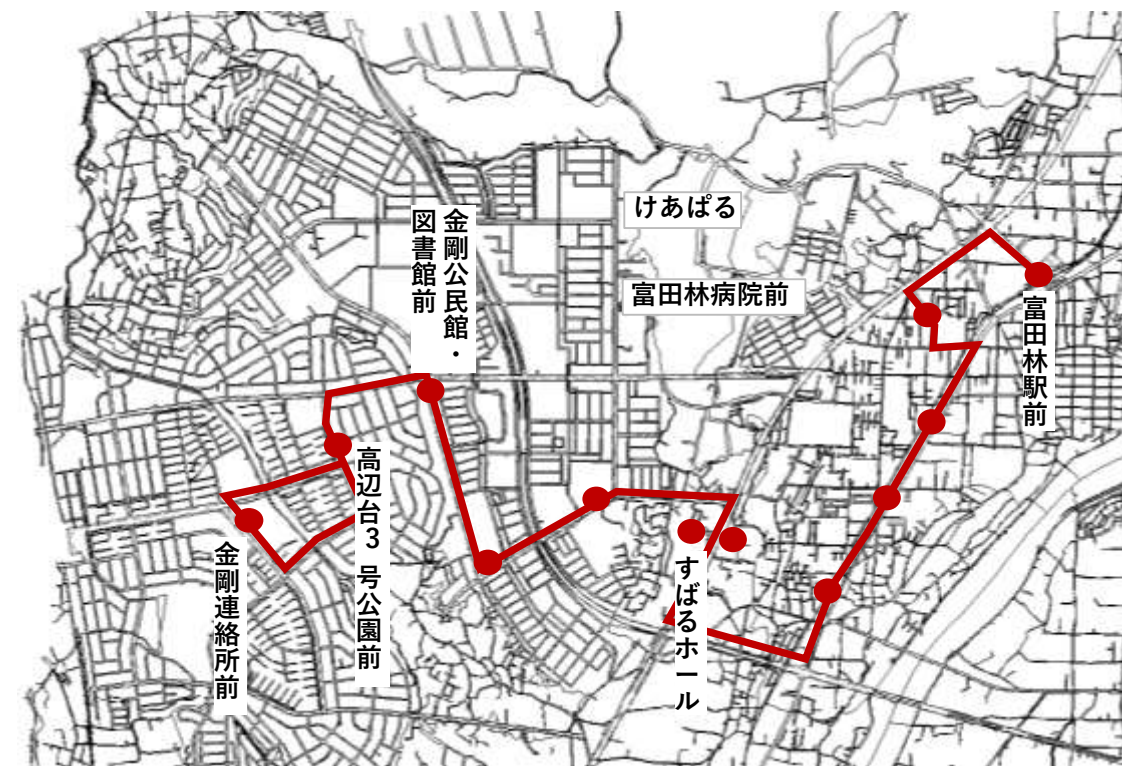
- ・ 「富田林病院前」・「けあばる」停留所の廃止
- ・ 運賃の値上げ。また、距離制変動運賃に移行する。

◎ 概要

- ・ 1日9～10往復（午前8時～午後8時、所要時間：往復約1時間）
車両1台（点検時等は標準車両で運行）
- ・ 運賃：170円～300円程度（距離制変動運賃）※
- ・ 経費：約2500万円／年（便数により経費は変動する）

※ 運賃について

- ①案：170円～300円程度（並行する路線バスと同等の運賃設定）
- ②案：170円と200円（路線バス運賃上昇に伴う激変緩和）
本来は、①案とすることで、運賃格差は解消できるが、運賃上昇額が高額のため、②案による激変緩和策で、利用者からの負担を和らげることができる。



ルート（案）

4.レインボーバスのあり方の具申内容の具体化に向けて

乗継割引の導入の検討について

現行のレインボーバスの運行エリアの縮小や運賃の値上げによる影響、路線バスの活性化、将来的なレインボーバスの再編の検討のため、路線バス運賃の乗継割引を行うための制度設計を路線バス事業者と協議を行い、実施方法についての制度設計を行っていく。

